損保ジャパン日本興亜福祉財団 NEWs

Sompo Japan Nipponkoa Welfare Foundation

●記念講演会・シンポジウムを開催　損保ジャパン日本興亜福祉財団賞
●助成先決定　「自動車購入費助成」
●助成先募集　「NPO基盤強化資金助成」と「海外助成」
●ご報告　財団の後援した事業
●学校訪問　介護福祉士養成のための奨学金給貸与事業

発行者　公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 損保ジャパン日本興亜本社ビル　TEL：03-3349-9570　FAX：03-5322-5257
http://www.sjnkwf.org/　Eメール：office@sjnkwf.org

2015 vol.2

第16回損保ジャパン日本興亜福祉財団賞 講演会・シンポジウムを開催しました

7月11日（土）東京都千代田区のグランドアーク半蔵門にて、「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞※」の受賞記念講演会、シンポジウムを開催しました。研究者や学生、企業・各種団体の皆様など、150名の方にご参加いただきました。

※「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞」とは
社会福祉分野における優れた社会福祉学術文献を表彰する制度です。社会福祉の学問的探求を志向する多くの学者、研究者の研究意欲を促進し、社会福祉の発展に寄与することを目的としています。

第Ⅰ部では、第16回「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞」の受賞者、斉藤弥生氏（大阪大学大学院人間科学研究科教授）が、受賞著書「スウェーデンにみる高齢者介護の供給と編成」について講演されました。参加者からは、スウェーデンの高齢者介護の歴史的な移り変わりと、コミューンを中心としたシステムは、日本の介護問題にも参考になると思った、供給と編成の連携の具体策をもっと詳しく聞いてみたい、などの感想が寄せられました。



斉藤弥生氏

第Ⅱ部では、「地域包括ケアシステムの確立に向けてのサービスの供給と編成のあり方」をテーマにシンポジウムを開催しました。まず2名のパネリストから、地域で高齢者が生活を続けていく上で必要なサービスの供給とその組織化・体系化についての発言があり、その後、会場からの質問も踏まえて、白熱したディスカッションがなされました。参加者からは、制度の実態と運用、理念の裏側が分かり興味深かった、介護保険や医療保険といったフォーマルサービスと、地域社会での住民間での支えあいであるインフォーマルサービスをどのように供給し、組み合わせていくのかという課題が整理できた、など多くの感想が寄せられました。

【シンポジウムご登壇者】
コーディネーター：岩田　正美氏（日本女子大学名誉教授）
パネリスト　：白澤　政和氏（桜美林大学大学院老年学研究科教授）
　　二木　立氏　（日本福祉大学学長）
コメンテーター：斉藤　弥生氏（大阪大学大学院人間科学研究科教授）

シンポジウム後の懇親会では、登壇者と参加者が和やかに交流する場となりました。



シンポシウム


懇親会

自動車購入費助成　助成先を決定しました

2015年度自動車購入費助成金として、障害者に対する福祉活動などを行う10団体に、合計1,000万円の助成を決定しました。
自動車購入費助成は、障害者に対する福祉活動を行う団体からのニーズが高い自動車購入の資金を支援する事業です。今年度は、東日本地区（北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島・東京・神奈川・埼玉・千葉・茨城・栃木・群馬・山梨・新潟・長野・富山・石川・福井・愛知・岐阜・静岡・三重）を対象に、2015年６月から７月にかけて公募したところ、129件の応募をいただき、以下の10団体に助成を決定しました。
損保ジャパン日本興亜福祉財団では1999年に自動車購入費助成を開始し、昨年度までの16年間で、助成先は累計163団体、助成額は合計約1.6億円となっています。助成先は以下のとおりです。

2015年度　自動車購入費助成　助成先一覧

所在地	団体名	主な事業 ※事業の一部をご紹介します	助成金額 （予定） 万円
北海道 久遠郡	特定非営利活動法人 せたな共同作業所 ふれんど	障害者の自立支援と地域での施設外就労や実習などの支援	100
岩　手 気仙郡	特定非営利活動法人 カトレア会	就労継続支援B型（非雇用型）での内職や農業（ワサビ栽培）	100
宮　城 仙台市	特定非営利活動法人 マイホームとしくん家	共同生活援助・生活介護事業等の重度知的障害者の生活支援	100
山　形 山形市	特定非営利活動法人 山形自立支援創造事業舎	地域参加型移動販売と行政市民一体となった循環型野菜作り	100
福　島 郡山市	NPO法人 ほほえみの間	就労継続支援B型（非雇用型）での菓子製造及び販売	100
栃　木 佐野市	特定非営利活動法人 シュシュ	児童発達支援、放課後等ディサービス事業による児童の療育	100
東　京 千代田区	特定非営利活動法人 WEL'S 新木場	障害者の就労支援及び施設外就労による企業内就労訓練	100
富　山 富山市	特定非営利活動法人 ありがた家	富山型ディサービスによる障害者（児）や高齢者、不登校児の支援	100
福　井 鯖江市	特定非営利活動法人 小さな種・こころる	食の安全、地産地消を目指した障害者就労支援としての農業	100
静　岡 静岡市	NPO法人 ニット工房ライク	ニット製品・カレー弁当の製造販売を行う就労支援作業所	100

※助成金の贈呈式は、損保ジャパン日本興亜に協力いただき助成先団体にて、開催する予定です。

NPO基盤強化資金助成と海外助成の募集

2015年度「NPO基盤強化資金助成」、「海外助成」の助成先を以下の通り募集しています。

事業名　募集期間（予算）	事業の内容　※助成金額	対象となる団体
基盤強化資金助成 ９月15日～10月30日 （総額1,600万円）	「組織の強化」と「事業活動の強化」に必要な資金を助成します。 ※１団体50万円上限、20団体程度	• 社会福祉に関する活動を行う特定非営利活動法人、社会福祉法人 • 西日本地区に所在する団体
	認定NPO法人の取得に必要な資金を助成します。 ※１団体30万円、20団体	• 社会福祉分野で認定NPO法人の取得を目指す特定非営利活動法人 • 全国で募集
海外助成 ９月15日～11月10日 （総額400万円）	ASEAN加盟国、インドでの社会福祉活動を支援します。 ※１件100万円（上限）	• 社会福祉に関する活動を行う非営利団体 • ASEAN加盟国、インドに本部を置く団体 ※推薦人が必要です。

※詳細は、当財団ホームページ　http://www.sjnkwf.org/　をご覧ください。

【NPO基盤強化資金助成】







【海外助成】







ご報告　～財団が後援した事業～

《第３回アジア太平洋CBR会議を後援しました》

９月１日から３日間、第３回アジア太平洋CBR会議が東京都新宿区で開催されました。
この会議は、（公財）日本障害者リハビリテーション協会が、CBRアジア太平洋ネットワーク、障害分野NGO連絡会（JANNET）と共に開催しています。開会式では常陸宮殿下（日本障害者リハビリテーション協会総裁）がお言葉を述べられました。地域社会の発展から「誰も取り残さない」という目標に対して、アジア太平洋地域の様々な国・地域における好実践が発表され、日本とアジア太平洋のコミュニティレベルでの多様な取り組みを学びあう機会となりました。

《内閣府・エイジレス章の贈呈式を開催》



同章は、高齢社会対策推進の一環として、年齢にとらわれず自由に活き活きとした生活を送っている方を表章し、広く紹介することで高齢期のライフスタイルの参考としてもらうことを目的にしています。このたび財団が推薦した損保ジャパン日本興亜ＯＢの武元弘文さんが受章され、9月11日に財団で贈呈式を開催しました。

《第22回世界アルツハイマーデー記念講演を後援しました》

９月27日に東京都新宿区で、「（公社）認知症の人と家族の会」が主催する講演会が開催されました。
「自分ごととしての認知症」をテーマに、軽度認知症をできる限り止める知識力アップのデイケアの紹介、認知症ケアの画像化、薬の開発情報などについて、長年認知症の臨床現場で研究を続けてこられた東京医科歯科大学特任教授・朝田隆先生がお話しされました。

《第42回国際福祉機器展H.C.R.を後援しました》

10月７日から東京ビッグサイトでアジア最大規模の福祉機器の総合展示会が、全国社会福祉協議会が主催、厚生労働省、経済産業省などが後援して開催されました。
最新の福祉機器の情報提供と福祉・介護・リハビリに関連する動向の紹介など、生活のあらゆる場面で利用される福祉・介護機器等の普及と開発や幅広い福祉分野の発展に生かせる最新情報の提供がありました。

学校訪問　～介護福祉士養成のための奨学金給貸与事業～

財団では、毎年20名の介護福祉士を目指す学生に、奨学金を支給しています。
９月17日に、奨学生が在席する「日本福祉大学中央福祉専門学校（愛知県・鶴舞）」を訪問し、寺田瞬さんにお話を伺いました。







同校は、日本福祉大学を母体に、1989年に介護福祉士・社会福祉士の養成校として開校し、これまでに約8,000名の優秀な人材を社会に送り出されています。
校舎は、名古屋市内のJR・地下鉄の鶴舞駅から徒歩５分の好立地にあり、愛知県下はもとより近隣の岐阜、三重からの通学にも便利です。また、介護ベッド、入浴施設、調理施設等の介護に関する実技学習の設備が充実し、実際の学習に当たっても、「指導教官を多く配置し、きめ細かな実技指導を行っている」とのことです。
少子化による学生数の減少並びに看護職志望者の増加等で、他の介護福祉士養成施設同様、入学応募者の確保が継続的な課題とのことです。一方、卒業予定者に対する求人倍率は三桁に迫る勢いとのことで、まさに高齢社会を支える「金の卵」といった状況です。
同校からは、毎年当財団の介護福祉士養成奨学金へ応募いただいていますが、校内選考に当たっては、「退学などで大切な奨学金を無駄にすることがないように意欲の高い学生を最優先に選抜している」とのことで、当財団奨学金制度を大切にご利用いただいているとの印象を受けました。



（訪問者：損保ジャパン日本興亜福祉財団専務理事・高野茂）